



発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 11 回川部会 WG を開催しました！

7 月 12 日に開催された第 11 回川部会 WG では、瀬淵やワンド、砂州、支川合流点の現状を確認し、情報共有を行いました。また、「瀬・淵について」「支川合流点について」「次回以降の活動について」「今年度発注工事について」などの各課題と解決策について話し合いました。

日時：平成 25 年 7 月 12 日（金）
13:00～18:30

調査場所：矢作川本川（瀬・淵、合流箇所）

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：21 名（事務局含む）

◆WG で議論した主な内容

- 瀬淵やワンド、砂州など、横断的な変化が形成されるには、低水路の川幅の広がりが必要であり、生物の生息環境にとって、水深が確保されている必要があることを確認した。
- WG メンバーの活動として、加茂川の段差改善の検討を行うことを確認し、大見川については、豊田市の検討状況を確認していくこととした。
- 期限（8/28）までに役員改選を行い、第 3 回全体会議で事後確認を行なう予定とする。
- 国交省の今年度発注工事のうち、樹木伐採と高水敷の掘削方法について、個別に WG メンバーから意見をいただくこととした。

第 1 部：矢作川本川現地調査



【意見交換】

（●意見 ▶回答）

（1）豊田大橋周辺の瀬淵、ワンド、砂州

- 州や瀬の前衛線が見える。このあたりの区間は州が交互に張り出している状態で、大きな洪水があると砂州が動く。（鷺見）
- 1999～2000年の洪水で瀬がはっきりした形になった。それまでは明確な瀬ではなく、戦後は河床が砂だったため、アユが釣れなかったと聞いている。（内田）
- ピアにあたる部分に立派な瀬があったと聞いている。（本守）
- ドビケラなど底生生物が、河床を固めている要因の一つである。（内田）
- 豊田大橋上流のワンドは、1999年の出水でできた。（内田）
- 川幅が広がると州がしやすい。この付近は、対岸が広がることを許容しているので、固定的な砂州ができています。（鷺見）

（3）高橋上流の瀬淵

- 左岸側に昔の大きな石の水制があり、魚の生息場所として重要である。（内田）
- 流れてくる土砂量と流量が同じなら、川幅は広いほうがよく、この場所では、川幅が広がると瀬ふちのメリハリができると思う。（鷺見）
- 右岸側の整備当初は人工的印象だったが、植生が生えていい状態になった。（内田）

（4）市木川の支川合流部

- 市木川の下流部、市街地の中にある落差工について、魚道を計画している。昨年検討を実施し、今年工事予定である。（高橋好）

（5）加茂川の支川合流部

- 加茂川合流部の段差は改善しやすく、WG メンバーでの活動も可能である。（内田）
- 加茂川上流部まで落差工に魚道が設置されており、この段差を解消すれば連続性ができる。（高橋好）

（6）大見川の支川合流部

- 下流域が東海豪雨で浸水被害を受けた。川幅が約 9.5m（管理道を含めると 28m）になり、多自然川づくりに則って整備する予定。地元とワークショップを行いながら、検討している。（北村）
- 上流を改修すると、合流部のゲートがボトルネックにならないか。（鷺見）



豊田大橋下流の瀬の状況



高橋上流の瀬を確認する様子



市木川での意見交換の様子



加茂川水門下の段差の状況



大見川合流部の段差の状況

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

(1) 瀬・淵について

- 今日現地調査した時に、豊田大橋下流には釣り人がいた。瀬にも、良い悪いがあると思うが、良い瀬とはどういうものか。(本守)
- 浅すぎるとアユの安定した縄張りができにくいと聞いている。(内田)
 - ▶ 河川整備基本方針では、魚の移動や産卵場に必要な最低水深が設定されている。(西原)
 - ▶ 渡合地区の場合、漁協から水深 80~90cm 程度必要と聞いた。(小林)
- 瀬だけでなく、それに付随する淵やワンドがあり、いろんな種類の魚がすめることが大事と思う。懇談会として、どういう状況を目指すか。そのために、低水路の幅がどの程度であるとよいか。(内田)
 - ▶ 低水路幅を広げると、横断的な高低差が出やすいと考えられる。河床が動くのは毎年ではなく、洪水により河床が動く可能性を念頭に検討を進める必要がある。また、河畔林のような場所もセットで考える必要がある。(鷺見)

(2) 支川合流点について

- 市木川本川について、地元から魚道設置の要望があったことから始まり、昨年度に魚道の実施設計、本年度に工事予定である。(高橋好)
- 今日のWGで魚の専門家がいるとよかった。特徴的な魚がいるかどうか基本的な情報があるとよい。(内田)
- 市木川周辺はいい環境ではあったが、現状では段差改善の提案はなかなか難しいと考える。(鷺見)
- 大見川の落差は、カワムツなど遊泳力のある魚には、ほとんど障壁になっていないと思う。(内田)
- 大見川の整備で樹木等は植える予定か。川幅があるので、いろいろ考えられるのではないか。(鷺見)
 - ▶ 基本的に、魚が棲めるようにとは考えている。(北村)
 - ▶ 水質は悪くないと聞いている。うまくつくれば、子どもが遊べる場所になるのではないか。
- 加茂川下流も、竹を伐採すればちょうどいい空間がある。(鷺見)
 - ▶ 加茂川本川の水質はよく、アドプト制度で竹を伐採しているところである。(小林)
- 市木川の段差解消は、すぐには難しそうであり、大見川は豊田市から紹介いただいた計画について考えたい。加茂川の合流点の段差改善には可能性があり、今後検討していくこととしたい。(内田)

(3) 改選の進め方について

- 期限(8/28)までに役員改選を行い、第3回全体会議で事後確認を行なう予定としたい。鷺見先生は、物理的に時間が確保できないなどの理由から責任ある立場からは降りたいという申し出があった。(西原)
- 学識者メンバーとして残りながら、瀬淵や家下川の課題に関わっていききたい。(鷺見)

(4) 今年度発注工事について

- 今年度予定している樹木伐採と高水敷の掘削の仕方について、ご意見をいただきたい。樹木管理の手引きに従って実施していきたいと考えている。また、樹木抜開体験会の開催や近隣の学区との維持管理の協働を考えたい。(小林)
- 第10回WGで説明した渡合地区対岸のワンドの実験ヤードとしての利用や安永川樋門周りのブロックの覆土についても考えていきたい。(小林)

今後の川部会 WG の予定



■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00
場所：豊田市職員会館
活動内容案：矢作川・家下川・承水溝・長池の高さ(水位)関係の把握、望ましい姿の検討

■第13回(地先モデル)

日時：平成25年9月20日(金)
場所：未定
活動内容案：専門家リスト、活動団体ヒアリング等について



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

